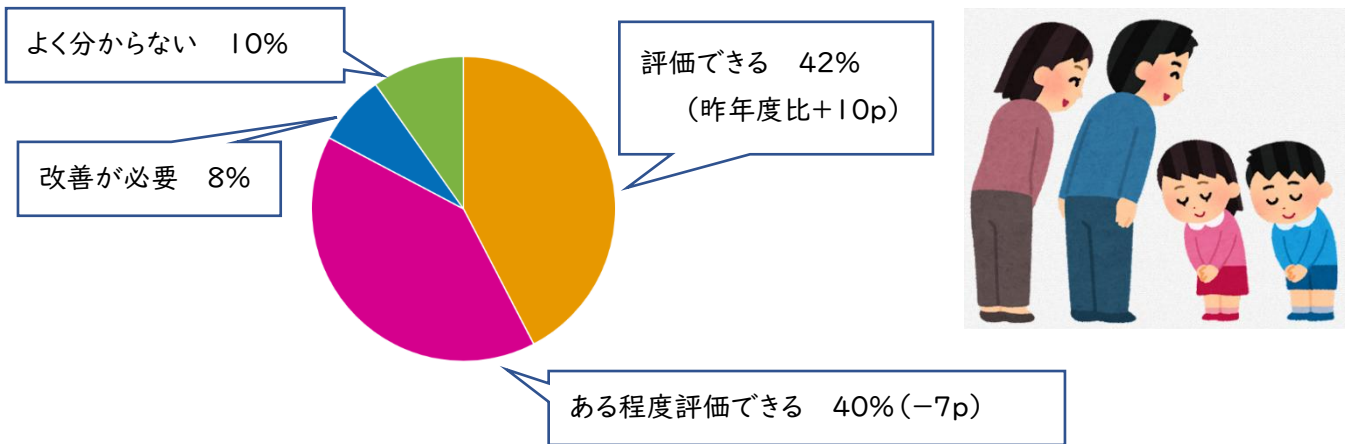


令和7年度 市場小学校 学校づくりアンケートの結果

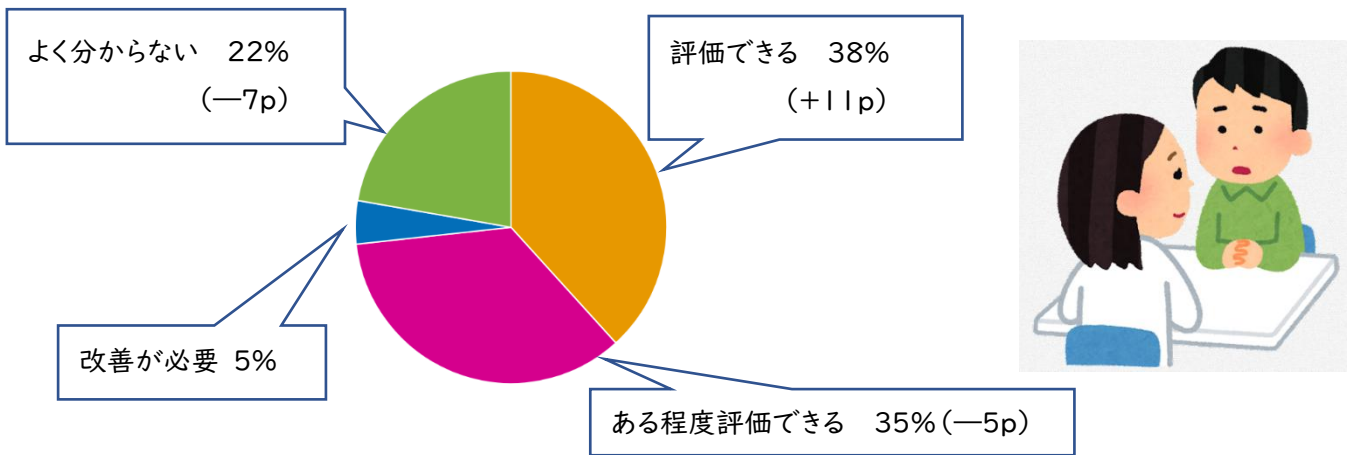
- 1 実施対象 保護者 1,334名 回答数 805名 (60.3%)
- 2 実施期間 令和8年2月4日(水)~2月12日(木)
- 3 実施方法 「すぐる」のアンケート機能で回答(択一式)
- 4 結果と考察 ※ 結果の数値の小数点以下は四捨五入したため、100%にならない場合があります

1 学校内外で、進んで挨拶をする子を育てている。(登下校時、朝会等)



保護者のおよそ8割が「評価できる」「ある程度評価できる」という回答であった。学校では、挨拶は他者とのコミュニケーションの最初の一步だと考えており、「挨拶運動」をはじめとし折あるごとに「挨拶の大切さ」について指導している。しかしながら、学校内では積極的に挨拶をする子ども、学校外では躊躇してしまう子どもも少なくない。また、挨拶することを定着させるためには学校だけの指導だけではなく、家庭でのしつけも必須であると考えます。

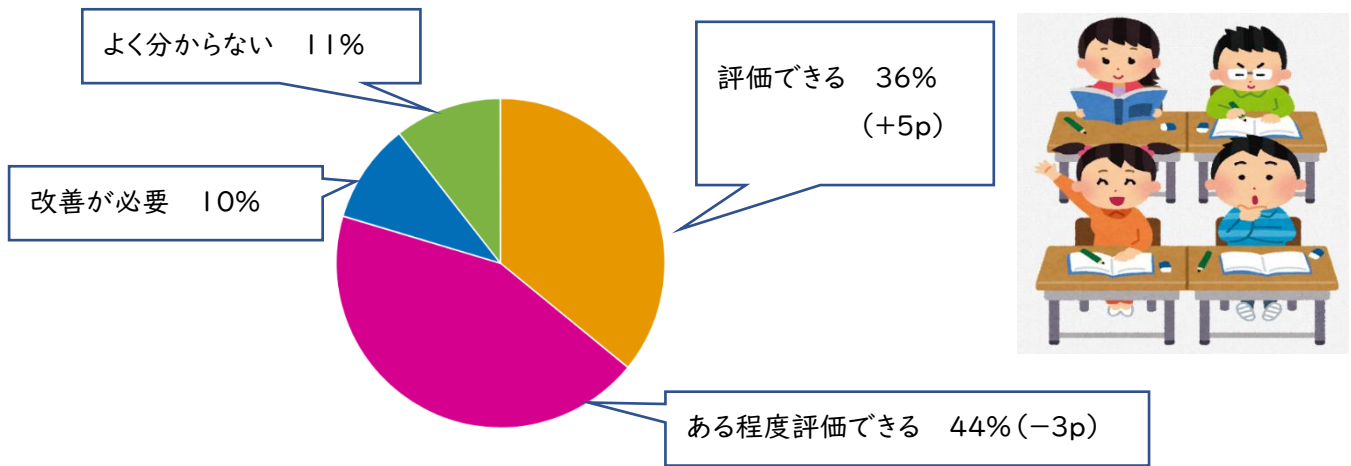
2 児童支援専任を中心として児童への支援や指導を組織的に行い、学校カウンセラーによる教育的相談等、いつでも相談できる環境が整っている。



およそ7割が「評価できる」「ある程度評価できる」という回答であった。市場小学校は、過大規模校ということもあり、児童数が多いほど児童一人あたりが接触する人数が増えてくる環境にある。いじめは決して許されることではないが、様々な接触の中で喜怒哀楽を感じながら子どもたちは学校生活を送っており、その過程で多くの社会性を身につけていくものとする。

市場小学校では、複数の児童支援専任がおり、それらが中心となって本校と分校とで情報を共有しながら、子どもたちが豊かで安心した学校生活を送ることができるように日々努めている。また、全職員で子どもたち一人ひとりの特性や配慮すること、個々の事案対応の経過と結果を共有している。このような取組の中で、ソーシャルスキルワーカー(SSW)やスクールカウンセラー(SC)、区役所の子ども家庭支援課、児童相談所、鶴見警察などと連携を図っているところである。

3 基礎学力の定着を図り、習熟の確認、補充指導を行ったり、学習のめあてを明確にし
りして、一人ひとりの興味や意欲を高め、分かりやすい授業作りに取り組んでいる。
(iPadの使用等)



8割が「評価できる」「ある程度評価できる」という回答であった。令和7年4月に実施した「横浜市学力・学習状況調査」の全学年の結果を見ると、次ページの円グラフのようになる。

【学力】

横浜市の平均と比較すると、4年生、6年生は平均を上回っており、3年生・5年生は同水準の結果となっている。

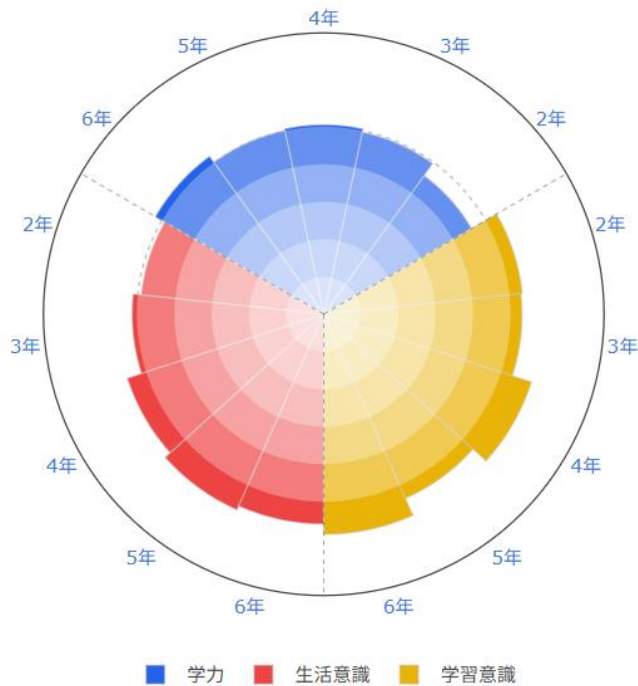
【学習意識】

全ての学年で横浜市平均を上回っており、特に4年生・6年生で顕著な結果が見られた。

【生活意識】

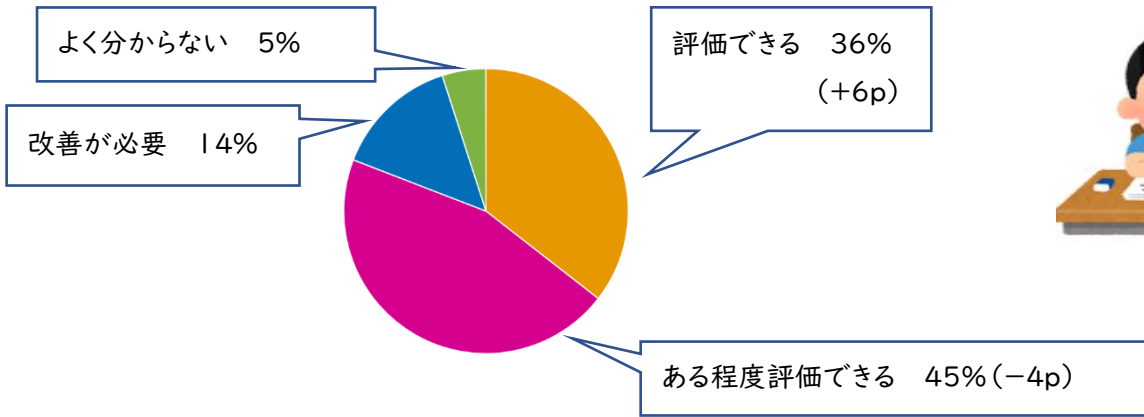
「生活意識」にある「学校生活」・「校外生活」・「自己意識」に関する3つの項目では、全学年で同水準か、それ以上の結果となった。特に「学校生活に関する意識」が他の2項目と比べて大きく上回っており、子どもたちは「学校での学習に進んで取り組んでいる」「学習したことをふだんの生活の中で生かして使おう」と感じているようである。一方で「自己意識」については、「自主的に運動・スポーツをする時間をもちたい」や「自分にはよいところがあると思う」という項目が全体を通して低い傾向であった。

令和7年度



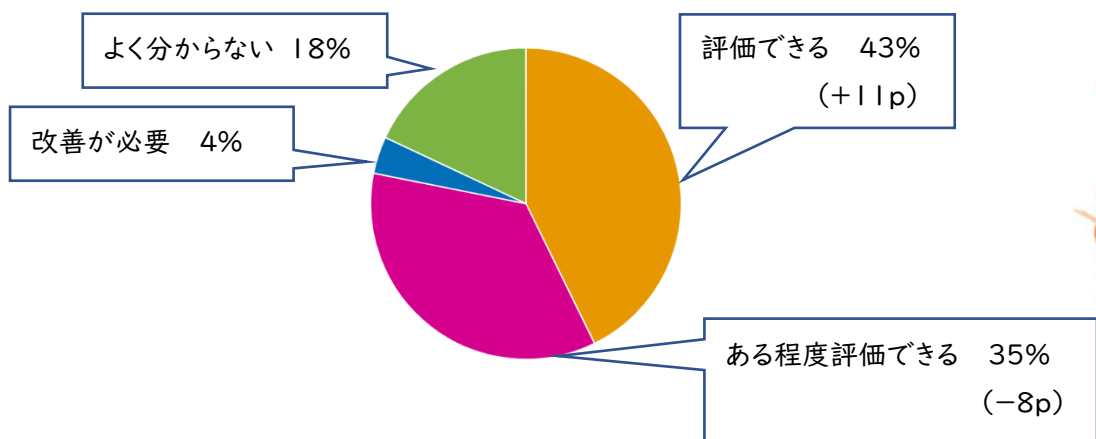
これらの結果を踏まえ、本校では引き続き「まちで輝く市場の子」を育てる取組を進めていく。子どもたちが自己肯定感を高め、周囲を大切に作る心を育むための教育活動を充実させていく。

4 各学年に応じた課題を出して、家庭学習の習慣がつくように取り組んでいる。



およそ8割が「評価できる」「ある程度評価できる」という回答であった。家庭学習の課題の内容や量については、子どもたち一人ひとりの放課後の生活スタイルによって、適しているかどうかは大きく左右されるものである。また、長期休業中の課題についても同様である。学年や学級では、子どもたちの実態を見ながら課題を出していることから、「もっとたくさん出してほしい」や「多すぎる」「塾の宿題があるから学校の宿題はいらない」などの要望は多岐にわたる。各家庭においてもおこなっていただいているとは思いますが、家庭学習の環境は保護者が整えていくべきことであり、難易度や量についても自身のお子さんに合った調整をしていただけたらと考える。昨年度から週に1日、iPadを持ち帰って家庭で活用する取組を始めている。次年度は、さらなる活用の充実を図りたいと考えている。

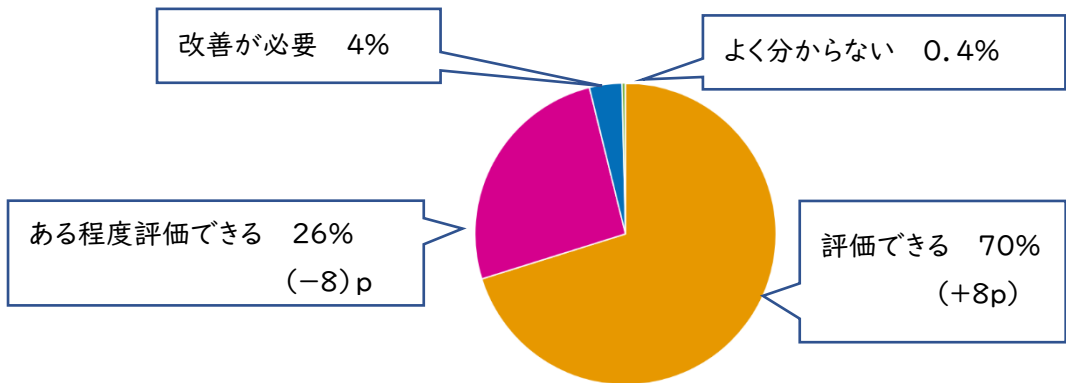
5 地域と連携して教育活動に取り組んでいる。



およそ8割が「評価できる」「ある程度評価できる」という回答であった。市場中学校ブロックの独自教科「鶴見ふるさと科」が令和7年度から完全実施となり、地域の方を招いて学習をおこなったり、子どもたちが地域に出て行って学習をおこなったりする活動が増えた。学校としては、地域の方々の協力を得られることは大変に有難いことであり、子どもたちにとっては貴重な経験となっている。

学校教育目標の「まちで輝く 市場の子」を次年度はより強く意識して教育活動を展開していこうと考える。引き続き、学校と地域とが協働していくことができるように努めていきたいと考える。

6 学校だよりや学年だより、保健・給食だより、授業参観、メール配信等で学校の取組や子どもたちの様子を発信している。

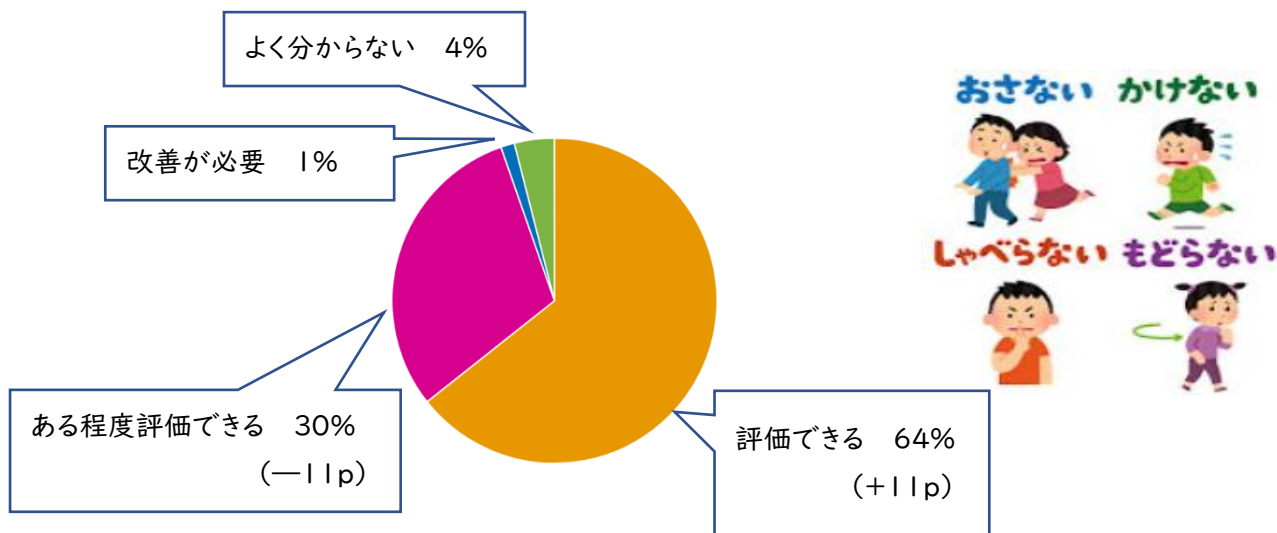


9割を超える保護者が「評価できる」「ある程度評価できる」という回答であった。学校から保護者、地域の方への情報発信としては、次のようになっている。

- 学校だより、学年だよりははじめ、学校からの急を要する内容、画像付きの学校生活の紹介(いちば日記)などの発信は「すぐーる」で行っている。地域に向けた学校だより等は、引き続き、紙で配付していく。
- 宿泊体験学習や入学資料配付会の説明は YouTube を活用し、必要な時に内容を見られるようにした。
- 学校ホームページは随時更新している。

今後も、学校の様子を迅速かつ丁寧に発信し、保護者や地域と共有することで、学校と家庭、地域とが連携・協働することができるよう努めていきたいと考える。

7 避難訓練、安全教室等の安全教育を実施して、子どもたちの防災・防犯意識の向上を図っている。



9割を超える保護者が「評価できる」「ある程度評価できる」という回答であった。学校は子どもたちが安全に過ごすことができる環境でなければならないと強く感じている。このことから、様々な非常事態を想定し、年間を通して訓練を実施し、子どもたちや教職員の防災・防犯意識を高めようと取り組んでいる。

例として、

- 火災発生を想定した避難訓練では、迅速かつ確実に校庭に避難する。
- 大規模地震発生を想定した避難訓練では、自分自身の身を守るとともに、学校施設の損傷や火災や津波の発生など、その後の状況に合わせた避難方法を身につける。
- 不審者の学校侵入発生を想定した訓練では、子どもたちや自分自身を守るための対応手段や対応方法を身につける。鶴見警察からの研修を受け、スキルアップに努めている。
- 少年補導員さんによるサイバー教室で、子どもたちがスマートフォン等を適切に使うことができるように啓発活動を実施している。

次年度以降も、「安全な学校」を定着していくことができるよう、取り組んでいこうと考える。

今年度の結果を昨年度と比較してみたところ、「ある程度評価できる」という回答が「評価できる」という回答に推移し「評価できる」の割合が増加したことが複数の項目において見受けられました。市場小学校が毎年、指導の方向性を変えずに取り組んできた成果であり、保護者の方々にご理解いただいていることの表れと考えます。

この現状をありがたく感じるとともに、引き続き、保護者の方々のご協力をいただくことを願っています。